

(問4) 実態把握(アセスメント)はどのように行えばよいのですか。

(1) 実態把握(アセスメント)の考え方

障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を実施するためには、個々の障害の状態及び発達段階や特性を的確に把握することが重要となります。

吉備国際大学の藤田和弘(2004)は、アセスメントの概念を図2のように示し、「アとイは子どもに関する情報を収集する作業であり、測定はアに相当し主に検査法を用いて、イの質的情報は主に行動観察法や面接法を用いて、これを達成する訳である。ウは、アとイで得られた子どもに関する客観的情報を意味づけ解釈する作業であって、指導に役立つアセスメントを行うために不可欠なものである。」と説明しています。

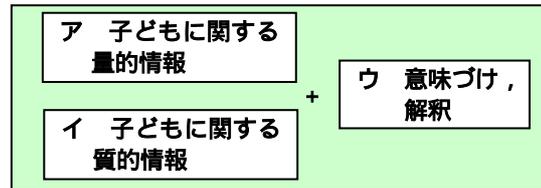


図2 アセスメントの概念(藤田和弘, 2004)

このように、実態把握(アセスメント)とは、様々な方法で情報を集めるだけでなく、それらの情報の意味を考えたり解釈したりしながら総合的に状態を捉えていくことを含んでいます。

(2) 実態把握(アセスメント)の方法

実態把握(アセスメント)の方法は様々ありますが、ここでは三つに整理して紹介します。

ア 面接法(聞き取り)

保護者や本人、関係者から直接的に情報収集する方法です。

相手との関係をつくりながら、傾聴・共感・受容といった態度で聞いていきます。「子どもを十分に伸ばすために、お互いに協力しましょう。」という姿勢が大切です。

イ 行動観察法

対象となる幼児児童生徒の行動を観察し、その記録を分析する方法です。

行動観察では、できるだけ客観的な記録をとることが大切です。留意点としては、観察の視点を明確にすること、その時の周囲の反応も観察すること、場合によっては頻度や間隔に着目すること等が挙げられます。

ウ 検査法

標準化された検査を通して、客観的なデータを収集し、障害の状態及び発達段階や特性を明らかにする方法です。視力検査、聴力検査、運動能力検査、知能検査、社会生活能力検査等、様々な検査があります。身長や体重などの測定とは異

なり，知能や発達段階のように直接測定することができないものを心理学的方法論に基づいて測定する検査を心理検査と言います。心理検査には，質問紙法のように幼児児童生徒を熟知した者が観察から得た知識から検査するものと，直接質問したり道具等で反応を見たりしながら検査するものがあります（表2）。

表2 心理検査の例

発達検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査 ポーター式乳幼児教育プログラムチェックリスト
知能検査	田中ビネー知能検査 WISC - 知能検査 K - ABC心理・教育アセスメントバッテリー 教研式ピクチャ・ブロック知能検査（PBT）
言語に関する検査	ITPA言語学習能力診断検査 絵画語い発達検査（PVT）
社会性に関する検査	新版S - M社会生活能力検査 精研式CLAC -
運動に関する検査	ムーブメント教育プログラムアセスメント（MEPA）
その他	フロスティック視知覚発達検査

参考：辻誠一（2003）

実践紹介：実態把握に基づいた指導の工夫

視力に配慮した教材・教具の提示

知的障害と肢体不自由を併せもつ児童への指導の工夫において，それまでは，姿勢に関することや身体の動きに関することを中心に実態把握をしてきました。しかし，視力に関しては，一般的なランドルト環による検査法では測定できないため，当該児童がどの程度見えているのかわからない状況にあり，教材を提示する際も試行錯誤の状態が続きました。

そこで，盲学校と連携し，縞指標を用いる検査法のTAC（Teller Acuity Cards：テラアキュイティカード）による検査法で測定してもらった結果，初めて視力を測定することができました。この結果から，従来の絵本やカード等を提示していた距離では分かりにくかったことが明らかになりました。提示物との距離を配慮することができ，学習の効果を上げることができました。

認知の特性に配慮した教材・教具の開発，指導の工夫

知的障害のある児童の指導において，その児童の得意な認知の仕方を生かした教材・教具の工夫を考えました。K-ABC や WISC - による検査の結果，認知の特性として継次処理よりも同時処理が得意であること，視覚的な記憶や機械的な処理能力が高いことが分かりました。

これらの結果から，教材・教具の工夫の観点として，具体的な操作ができ活動への意欲を継続しやすいこと，視覚の手がかりを重視すること等を考えました。また，指導に当たっては，具体物の操作などの活動の時間を十分に確保しました。さらに，見通しをもち安心して授業に臨むことができるように，導入時に学習の流れ図を提示したり，学習の流れをほぼ一定にしたりしました。

このように児童の認知の特性を生かした教材・教具を開発したり，指導の工夫をしたりすることを繰り返すことにより学習意欲の向上や学習内容の理解が効果的に図られました。

出典：大川幸雄（平成17年）



角度マシーン：角の大きさは2つの辺の開き具合であることを理解させる。

引用・参考文献

藤田和弘「アセスメント再考」『LD&ADHD 10』明治図書，2004，pp.6-7

辻誠一「特別支援教育のコツと技」2003，日本文化科学社 pp.62-72

大川幸雄「知的障害児の主体的に学習に取り組む意欲を高める指導の在り方 得意な能力を生かすことのできる教材教具の工夫を通して」広島県立教育センター，平成17年，平成17年度（前期）教員長期研修研修発表会資料